

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 たんぽぽ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450番地1		
自己評価作成日	令和元年10月7日	評価結果市町村受理日	令和2年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成31年11月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、いつまでも自分らしくという理念の下、その方の思いを大切にして普通の生活ができるように支援しています。また、人生の大先輩であるという尊敬の念と職員自身も環境の一部である事を念頭において同じ人生(とき)を過ごしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人内の事業所が複数隣接した住宅地にあり、近くにミカン畑や小川に沿った散歩道など自然環境も程良い立地である。いつまでも自分らしくあり続ける人生(とき)を送るとの理念と、職員が話し合い決めた介護目標を、管理者と職員が常に意識し利用者の思いや暮らし方を家族等と連携しながら実践に繋げている。母体が医療法人であり、医療連携体制が整い看取り支援も毎年行っており、本人・家族の安心と信頼に繋がっている。特に利用者個々の要望や習慣にも本人の力の維持を考慮した中で、できない部分だけを支援するよう取り組んでいる。入浴後にもう少し温まりたいとの希望に応え、再度入浴支援を行うなど利用者本位の柔軟な対応は、利用者の穏やかで落ち着いた表情に映し出されている。職員の傾聴力とチームワークの良さ、笑顔での接遇マナーが行き届いた事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念を伝え、その人らしさや寄り添う介護に努めている。また、玄関や休憩室に掲示していつでも確認している。	管理者と職員は、いつまでも自分らしく、その人らしい生活をしてもらうとの思いが込められた理念と介護目標を意識し、支援に取り組んでいる。職員は常に笑顔で寄り添い、利用者の思いを傾聴することにより、本人の生活習慣の継続や状況に合わせた柔軟な支援の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にこども園との交流会を実施して楽しまれている。また、地域の方々には、こちらから挨拶をしたり、日々の繋がりを大切にしている。	職員は、地区自主防災会議の参加、町内清掃前の空き缶やゴミ拾い、散歩中に挨拶を交わす等、地域と顔馴染みの関係を築いている。近くの保育園児の定期的な訪問、中学生の職場体験学習受け入れ等、隣接の法人事業所と共に高齢者福祉の拠点となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一斉清掃前に空き缶拾いに取り組んだり、運営推進会議を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告や身体拘束等適正化委員会を通して、ご助言や意見を頂き、サービスの向上につながっている。また、避難訓練の参加とご協力を頂いている。	年に6回規定の参加者で開催し、地域住民はじめ参加者は、事業所への理解と協力体制に繋がっている。事業所の現状はじめ会議内容は、詳細な議事録で確認できる。ただし、家族の参加は法人内事業所と交代であるため、家族への会議開催についての周知が図られていない。	運営推進会議は、事業所の取り組みや課題を話し合い、理解と支援を得るために重要な会議である。家族等が会議内容を把握できる工夫と、家族の参加を増やすための取り組みにて、更なるサービス向上に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修に参加して情報を得たり、手続き等は、担当の方へお尋ねしている。また、運営推進会議では地域包括支援センターの職員と情報交換や助言を頂いている。	支所や本庁の窓口に出向き、申請や手続きなどを行っている。市職員、包括支援センターの職員とも情報交換し、協力関係を築くよう取り組んでいる。市主催の研修会には、職員の希望や内容に合わせて、交代で参加している。福祉課職員の訪問もあり連携体制が確認できる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加し、全職員が正しく理解して、拘束のない支援をしている。	職員が身体拘束廃止に関する外部・内部研修に参加することで、拘束をしないケアについて共通認識を図っている。身体拘束等適正化委員会にて、現在の状況の振り返りを行っている。日中は玄関の施錠も無く、外に出る利用者には職員が寄り添い散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ミーティングでも取り上げて、虐待がないか常に念頭に入れて取り組んでいる。		

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する方がいらっしゃらない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族の思いを傾聴し、十分な説明をしてご理解・納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の思いを傾聴し、ご家族へは面会時や電話等にて説明しご理解を得ている。	利用開始時に内部、外部相談窓口の説明を行っている。意見箱の活用により職員が面会時や電話で気軽に話してもらえ関係づくりに努めている。原則、利用料を現金払いとすることで、訪問の機会を増やす仕組みもある。また、各居室に本人の写真アルバムを用意することで、日常生活が把握でき、家族の安心に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月のミーティング時に意見交換を行ったり話しやすい雰囲気となるよう心掛けている。	毎月の職員会議や申し送り時には、職員が活発に意見を出している。職員の提案で湯沸ポットを脱衣所に設置している。管理者は職員が一人で問題を抱え込まないように配慮し、希望休やシフト変更、希望研修受講など対応している。また、代表が毎日訪問し相談など気軽にできており、職員のチームワークの良い職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップややりがいを持って働ける環境の整備に努めている。また、労働条件等を話しやすい雰囲気となるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為、研修にも積極的に参加するよう呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の会議や勉強会を通じて、管理者も職員も交流出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の思いを傾聴し、寄り添うケアを大事にし、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、要望に添えるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の情報を基にアセスメントして、その時の状況に応じた対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活を見守り、寄り添い、安心して生活してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて近況をお伝えし、要望をお尋ねして、疎遠にならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が訪問しやすいよう声掛けし、面会しやすい雰囲気作りを心がけている。	これまでの生活歴や習慣を本人・家族等から聞き取り、フェイスシートにまとめている。行きたい場所や会いたい人を把握し、近所の人や友人の訪問、行きつけの理・美容院での散髪や家族の協力で、カラオケボックスや外食に行くなど、馴染みの関係継続が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に憩える場所があり、レクリエーションやテレビの視聴を通して関わりがあり、見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの御縁を大切にして、いつでもお声掛けくださいとお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向に添えるように傾聴に努め、希望に添えるように支援している。	職員は、傾聴に取り組んでいる。居室や散歩、入浴時など1対1の支援時に思いを汲んでいる。難聴の場合、聞こえの良い耳元でゆっくり話したり、筆談を取り入れている。発語困難な場合は、好きな歌を歌うことで、発語訓練し、思いを表現できるよう支援している。職員は、申し送りノートで情報共有し、その人らしい暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から情報を収集し、過去の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々の状態を観察し、職員間で情報共有して支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞き、職員間での情報交換や医師・看護師との連携で本人の望む暮らしとなるように作成している。	利用開始時の本人と家族の意見をもとに、暫定の介護計画を作成している。更新時、家族の要望や意見を尋ね、家族がわかりやすい介護計画となっている。毎月カンファレンスにて支援状況を検証している。アセスメントでは、暮らしかたシートやケアシートを活用し、利用者の思いや状況、職員の気づきを支援に含める仕組みが確立している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有をし、個別に対応していくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にお尋ねしながら、お花見や外出などの行事に取り入れたり、外出(買い物・散髪)をしている。		

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て防災訓練を実施し、地域の方々の参加もあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人で、往診や定期的健康診断をうけている。医療連携体制もできており、急変時の対応もできている。	受診は、本人や家族の希望を優先している。母体の医療法人以外への受診も行われ、通院には家族の協力を得ている。受診内容は家族と毎回共有している。夜間など緊急時は、母体である医療法人の医師と看護師と連携を図り、適切な助言や対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報交換をして、連携がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居開始時に、重度化や看取りについて説明をと意向をお尋ねして、医師や看護師と情報共有をしてチームで支えていけるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やその時々、本人や家族の意向をお尋ねし、医療機関や職員で情報の共有をしてチームで支えていけるように支援している。	契約時に、重度化した場合における対応に係る指針と看取りに関する指針を説明している。段階を踏んで、主治医が看取りについての説明を行い、家族との意思確認を行っている。職員は、看取りに関する研修を受講し、看取りの意義を理解し、利用者や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基に、発生時には直ぐに対応出来るように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアルを作成し、消防や地域と合同で訓練を実施して、有事の際の協力をお願いしている。また、施設内での火器(タバコ・線香・ろうそく)の使用はご遠慮頂いている。	年4回、避難訓練を実施している。内1回は法人ホーム合同で開催し、消防署、地域住民が参加する避難訓練である。夜間想定や自然災害の訓練も行っている。職員は夜勤時、マニュアル確認とシミュレーションしている。災害時のマニュアル、備蓄品も確認できる。持ち出し書類については、より現実に即した見直しが必要である。	避難時に持ち出す書類について、誘導しながら持ち出すことを想定し、その書類の量や形態、保管場所など、検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬語で対応し傾聴に心掛けている。また、排泄のケアや職員間の会話も周囲への配慮をして対応している。	職員は、利用者を敬いながら傾聴に努めている。利用者の生活や職業に応じ、誇りやプライバシーに配慮し、会話の内容や言葉遣いで対応している。羞恥心に配慮し、できる限り布パンツで過ごせるよう支援している。個人情報事務所で管理し、職員の守秘義務も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	第一に傾聴し、自分の思いが伝えられるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りを重視し、本人の希望に沿った支援となるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は、本人の好みの物を選んできてもらったり、ご家族が持参された物もいつでも着用できるように手の届く所に置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞きながら献立をたてたり、野菜の下ごしらえ等一緒に行っている。	利用者の嗜好や旬の食材を用いた献立を職員が作成している。食材は、地元の商店を利用している。食べたいものを食べたいときに食せる喜びを、利用者と職員と一緒に味わっている。食材を食べやすく調理し、自分のペースで味わえる工夫がある。誕生会や行事に合わせた特別メニューで、食事を楽しむ取組みがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の現状に応じた形態や食事量にして提供し、自由に水分が摂れるように、ペットボトルでお茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じてケアをして清潔保持に努めている。また、自立の方も定期的に義歯をポリドントにつけて支援している。		

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄支援で自立支援に繋がっている。	職員は、各居室のトイレでの排泄を支援している。体調に応じ、ポータブルトイレも利用している。現在自立した利用者が多く、排泄状況は利用者自身が職員に伝えたり、さりげなく確認している。排泄チェック表で、職員は情報共有し支援内容を検討している。利用者が快適に過ごせるよう、パッド類やリハビリパンツを検討し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量の把握と乳製品や食物繊維の多い食事の提供で、出来るだけ自然排便となるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節を感じて入浴できるように工夫している。また、入浴日以外でも状態や希望に合わせて支援が出来るようにしている。	週2回、午前中から入浴を準備している。入浴日以外も、必要に応じてシャワー浴など対応している。利用者が安心して浴槽に入ったり、再度入浴を行ったり利用者が必要とする入浴介助を実践している。ゆず湯など季節の湯を実施したり、入浴中は会話を楽しむなど、心地よく過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休んだり、フロアでゆっくりしたりと、それぞれの時間でゆったりと過ごす事が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のファイルがあり、いつでも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意な事を把握して、負担にならないように支援している。また、誕生日には、希望を取り入れたメニューを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食支援や個々に合わせて散髪や買い物に出掛けている。また、可能な方は、ご家族との外出もできるように支援している。	天候や利用者の体調に配慮しながら、外出支援を実施している。利用者の希望を優先し、日常的に敷地内や周辺の散歩の他、移動販売を見物に玄関先に出たりしている。個別の買い物や外食なども対応している。季節ごとに、花見など外出を企画し、みんなで外出を楽しんでいる。	

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向で、お金を持たれている方もいらっしゃる。必要時にはご自分で支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に連絡を取っておられる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには四季に応じた作品を掲示している。また、テレビやソファ・畳やベッドがあり、思い思いの場所で過ごせるように支援している。	リビングは広く、利用者がソファでテレビ鑑賞したり、畳の間に寛いだり、ゆったりと過ごしている。利用者は、野菜の皮剥きやお膳拭きなどできることを役割とし、気持ちに張りのある暮らしを実現している。季節の飾りつけや作品を飾り、利用者が自分らしく自由に過ごせる落ち着いた居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのイスやソファがあり、思い思いの場所でくつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物の持ち込みや本人が望む設えと安全配慮を考慮し、本人・家族とともに工夫している。	自宅から仏壇、テレビ、使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、利用者が過ごしやすいよう配置もさまざまである。湿温度計付きの大きな時計や苔玉を育てている利用者もおり個性的である。転倒防止のためベッドを中央に置き、歩行の支えにでき、活動しやすいよう工夫している。換気や掃除も行き届き、寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクを考え、歩行動線の妨げにならないように安全配慮して環境整備をしている。		